

タウンミーティングまるちゃんカフェ「みんなで考えるケアラー支援」

参加者アンケート 集計結果

1.本日の感想(参加者54名のうち、44名が回答)

	良かった	普通	良くなかった	無回答	合計
件数	39	4	0	1	44
割合	89%	9%	0%	2%	100%

2. 一番記憶に残っていること、今後してみたいことなど

・ケアラーに興味がある人がこんなに多いんだと思った。
・ケアの体制があっても、ご本人が希望しないとつながらず、ケアを受ける事に抵抗感を持つ方が多い(児童・障害・高齢者等とのステージであっても)のでは。
・明石市が真剣にこちらのテーマに取り組まれている事を知り感激しました！ありがとうございます！
・ケアラーの定義、ケアラーの思い。
・内容もスタッフのサポートも素晴らしいと思いました。
・同じ気持ちの方が多くいた事が良かったです。情報をわかりやすく発信したらいい事や、介護保険の利用の幅や負担金額についても考えさせられました。
・相互の情報交換が必要。15 歳、18 歳、20 歳の壁。支援を受けられるカベ、はざまがあることを知りました。
・介護保険のこと。地域のつながりについてもっと知りたい。
・色々な人と意見交換する中で、お互いさまの気持ち・こうしたら実現可能なのではないかなど自身の考えも変わったように思う。
・このミーティングを市民からの意見を聞きましたとの事に、条例制定のために利用しないで下さい。
・ケアラー支援で対象となる範囲の広さを改めて感じた。もう少しテーマごとに掘り下げて課題抽出する必要があるのではないかと感じました。
・ケアラーが知られていないのが驚きで、まずは知る事から始めてほしいなと感じています。
・認知症の介護は本当に大変で、徘徊の事を丸谷市長が聞いて下さったのがとてもうれしかったです。
・同じ想いを持った人と話ができてよかった。少し気持ちが楽になりました。
・ご近所探索。情報を集めようと思う。
・ケアラーさんの生の声が直接聞けた。
・重度障害者の方をケアしている方の変さ。
・このミーティングが明石をチームにしたいと思います。
・お互いさまの気持ちが必要。地域のつながりが大事。
・今ある支援にプラスアルファしてできることを考える。
・何より、明石市の職員さんの人柄やタウンミーティングの空気感が素晴らしかったです。これまで参加させていただいた研修などの中でダントツでした！
・グループで話し合いをした際に、他の方の話が雑談に近いところまで話していて、言いたい意見を伝える時間が足りなかった。会場が広くなった分マイクの音声を通りづらい場面があった。
・悩みを話しできたことがよかった。

・自分の世界の中で、できることをまず考えていましたが、「小・中学生の授業に入れる」など自分の世界の外で考えもつきませんでした。
・色々な分野の人同士の話し合いは大切だと思いました。
・ケアラーの意味がわかった事。
・ケアしながら働き育児している人の話、薬剤師の方との会話。
・世代間交流の必要性を感じた。
・ケアラーはなかなか見つけづらい。
・議論に時間を割く方が良い。ただ、丸谷さんも介護をしながら重責を担っておられることが分かり、親近感がわきました。
・ケアラーの方、支援を受けている方、いろんな方々のお話をきくことで、実際の困り感や使用できるサービスをすることができた。
・医療ケアの当事者のご家族、障害児者のご家族が参加されていたこと、福祉事業所関係者、相談支援専門員、地域で活動されている市民の方、様々な方々が立場を越えて互いの思いを積極的に話されていた。
・市内でこれだけ沢山の方々がケアラー支援に関心を持っておられることは素晴らしい。また大切な人財でもある。今日参加出来なかった方々も多くおられる。その方々の思いも是非くみとっていただきたい。
・市長が自ら各グループに入られて熱心に傾聴されていた。また、市の職員さんが献身的に参加者の意見を聞いておられた。
・一番記憶に残っていることは、市長さんや行政の方含め、様々な職種で働き熱い思いを持っている方との自己紹介、意見交換です。お会いする機会も少ないので参加してよかったと思います。是非また参加したいです。
・明石市がケアラーに関して深く理解してくださっていることに感銘しました。より良い社会になることを期待し、またより良い社会になると確信しました。Zoomでの参加があると助かります。

3. 「ケアラー支援条例」に対する思いや、今後のケアラー支援に期待すること

・ケアが多様なので、支援も多様であってほしい。
・ケアラーの方々が集まれる場、そこから条例の改正ができるように。明石市民病院の医ケア児(者)の受け入れは期待します。
・ケアラーは身近に沢山いるのではと気がつきました。「困り感」を抱えこむ事で「障害が生まれる」「障害が連鎖する」ことにつながっていきそうと思いました。”心の健康”と”身体健康”両面からのサポート体制が生まれるといいなと思います！
・ヒアリングしてもっと改善してほしい。心のケアを増やしてほしい。
・支援を受けることにマイナスイメージを持っている人がいる。受けることに抵抗を持たないようになれたら。
・普段、行くところ(飲食店・スーパーなど)でケアについて相談できたり、情報を知れたら。民間企業との連携・様子見の訪問など。
・小さいうちからケアラーについて勉強していく事や、サービスがどこにあるかどの人たちにもわかりやすく、情報提供の場を作って欲しい。
・ぜひとも壁がなくなるゆるやかな支援の条例を作してほしい。
・支援サービスの情報が誰にでも届くように。
・条例はすばらしいと思います。

・支援の必要な人に、支援が届く条例になることを期待します。
・困りごとをもっと共有しやすくなること。
・12月議会での制定は時間的に無理。審議会の編成や素案作成時への市民参加が必要。勝手に進めない事を頼みます。
・拙速すぎるという意見もあるが、ケアラー当事者の方々には時間が限られている。待った無しの具体的な支援が早急に必要である。今困っている方々が希望が持てるように是非条例制定に向けて迅速に取り組んでいただきたい。
・少しでも「心の負担」がなくなる、セーフティネットがあるという認識につながっていくような条例になることを期待します。
・障がい者でも自由に相談できる場所を設けて欲しい。
・ケアラーの支援について、働きながら介護をしている人に、介護離職がないようにしてほしいです。
・今回の市民の声を生かしたものにしたい。
・支援することされることがあたりまえの市になりますように。
・ケアラーの人生が楽しくなる、ケアも人生(自分の)も楽しみながらできるような支援の連携をしていきたい。
・ケアラーの声が出せる場所が必要(子どもも)
・様々な立場の人が対話することに大切さ、そこから何かうまれる。
・条例の制度を第一段階として、市民の生活にしっかり反映していただける制度の整備を期待しています。現状(支援の現場目視)では、ぜんぜん足りていません。
・ケアラー自身の精神的な負荷に対しても支援があり助かる。ケアがしんどくて虐待にならないように、ケアされる側の行動がケアラー側への虐待にならないように支えてほしい。
・いろんな情報をもっと知れるようにしてほしい。
・ケアラーが相談できる場所がほしい。話せる場もあってほしい。知人や親類に経験者がいない場合、頼れる人がいないので。
・補助金など含めて、「生活」を支えて欲しい。
・ケアラー支援は良いことと思いますが、条例にしないとできないことというのがまだ良くわかりません。
・小児、医ケア、障がい児の子を持つ親の立場であるが、他にも認知症、高齢介護も含めて包括的に行うことは難しいことが想像される。だから今は期待は持たない。いっぱい意見聞いて頑張れ！！と思う。
・ケアラー支援ということが、誰もが分かる言葉で支援の仕方まで分かったら、安心して住むことにつながると思った。
・参加者から出ていた15歳、18歳、20歳の壁を越えていけるようにしていただきたい。特に障害福祉、高齢福祉を前に進めていただきたい。また、企業などにも協力してもらえるように働きかけていただきたい。
・ケアラーは普通の生活、自分の権利などを意識できなくなり、自分を犠牲にしがちです。義務教育でもって正しい認識、価値観を皆で共有して、倫理観や哲学を身に付けることができる施策をお願い致します。そして、すべての人が今より少しでも質の豊かな人生が得られるような支援を希望します。また、ケアの役割が終わったあとの喪失感や自己存在意義にとらわれない引き続きのサポートがあればと考えます。私自身、様々な専門職の方々にかけていただいた言葉が支えになりケアラー後の日々を無事に過ごすことができます。本当に色々な言葉をかけていただき、支援していただき、感謝しかありません。
・明石は住みやすい町で有名ですが、高齢者にとってどうなのか、というのが気になります。高齢者にとっても住みやすい町であればもっと自慢できる明石市になると思います。

5. 今後タウンミーティングで取り上げてほしいこと

・就労について(障害のある方)市に頼るだけでなく、市民や事業所も協力してできる事はないか。
・終末ケアについて。施設のこと・病院のこと。
・今後、高齢者が増加していくなか限りもあるので、どのように市全体で取りくんでいったら良いか話合っ てほしいです。
・難病支援についての事。介護の事。働きながら介護する人、特に障害者の介護(20代～60代)のこと。
・高齢者のくらし・介護支援など。
・医ケア児(障害児)の困りごとについて。
・観光、スポーツ
・色々な立場の方々のケアラーさんの実例をもっと情報として上げて頂ければと思います。相談窓口の充 実を。
・50代男女をテーマにしたタウンミーティングをしてほしいです。
・障害者の18才問題について。
・精神疾患について。
・小中学校が大規模になっている中で、子どもが心穏やかにすごせ、学びの場を保障するためにいずれ少 子化にと言われますが、今しんどい思いをしている。
・ケアラー条例のその後、どう変わったのかもシリーズとして取り上げてほしいです。
・サバイバー、DV、虐待について。
・介護施設、療養型病院、緩和ケア病院、介護保険サービスとかどのようなものがあるか。
・地域のつながりづくり。
・今日のテーマはマクロすぎるので、各テーマに沿った深い意見を聞いてはどうか？地域で支え合うよう な取り組み(古き昭和の地域社会)を市が引っ張っていけないものか。
・可能であれば、ケアラー支援タウンミーティングを大久保、二見などでも実施していただきたい。10代、 20代の若い世代の方々の声を是非聞いていただきたい。
・自治会の大切さを改めて考える機会があればと考えます。有事の際、ネットでの偽情報、誤情報が発生す る今の時代、信頼できる情報は自治会つながりの行政からの紙情報と確実に信頼できる行政のホームペ ージと考えます。また日頃の小さな細い繋がり(蜘蛛の糸のような)が有事の際には平素より何倍もの効 果を発揮すると予想されます。昭和の時代の自治会は確かに大変で負担の大きいものと印象づけられま すが、令和の時代にそくした自治会を構築してみてもと考えます。その際にも、やはり倫理や哲学を皆で学 び同じ概念を共有し、昭和の自治会の歴史を直視しつつ、反省し、欠点を克服し新しい令和の自治会を市 民皆で考えることが大切です。是非今一度自治会の存在意義を考えなおしたいです。
・明石市もそうですが、最近色んなことで日本はどうなっているのか？どこに向かおうとしているのか気 になります。そういったことを対話できる場所になると嬉しいです。